

1104

公

大藤

平の



中元

藤原

怪物考考考四 (中巻)

輓輶首怖念却報福結

九品菊比の侍臣藤貝重太左衛門武
連あるりの豊祖とて相傳へて弓馬乃
道他つ子執鎗術子稽く代々力量の
血縁を海へて零名願をせしむる編
達し。永享の礼子屢武切と成りて
各國小威と名をよとつ人も。至る家
大内義弘がちるる滅亡せしむる武連

怪物と論考四

それよりち雅藝にて廻籠と名をよ。つ
つ入て斗あつ新あんな時とらるるざり。面小
皐紗と着まといども。性せい賢ハ海うみ若
小うさ愛あいとぞ。別強べつ振あ戻かえみして。深山ふかやま幽
吾われ瞻あ野のとつ人も。兵へい小入こいりまバ字と禪
て安やすおし。ああままのの方へ技わざとまきめて
出りやどふ。甲か斐ひ乃山のやま中なか小こ忌よ子こ虎こ
日ひ暮くれ乃のぬぬバ。岩い石しふふ小こ神かみららちちああて。木きの
招まりり抗かし。宮みや々々々々と安やす脚あししし辰た々々。

お連つれて九折きゅうせつの及およととゞく。岩い角くと峯やま里ら
 本の糸いとを傳つとひて。紙や一箇ひの整あ歩む室むろを
 表あらわす親おやるふ。いふも古こ本ほん茶ち蒸じて寂さ々さ
 うる軒けん輝ちの色いろ覚さえ洗せんふ水みづと結むすんで定あを
 流ながぎ。竹たけの編あ戸と押おめて肉にく中ちゆう入いる。男おとこ力ちから
 廿に五ご人にんお峯やまへ。摺あ折せくべさる。因い纏ちゆう書て
 乃すなはちふまことぐまなぐ。回まわ就しゆうとふんて舞まと折せ
 手てと束つか糸いとて踏ふ張はり。回まわ就しゆう至いた乃すなはち
 着きる。少すくなやうとさる。と感かん考こうし。そと書か成せいと

全加子命の巻



三ノ

怪物手繪卷四



一九五

高せり同くふる至ある至ドのこ我くはは山中のこ處に遊ぶ
 してき峰ふ亦も人を殺すと唱ひ水と吞て釋
 小ろ彘を命めいと殺すに濟ら創さう乃を佐ま吾が賊はな
 走とと久も必前ぜんの當田の至も將しやう小を仕つて
 宵う也や孫そんも重之ぢ及を勤つと取り馬ま了り名
 々々保ほ者者の嫡孫そんなり也也我あ暗あん昧まい小を一ちて交
 の家業ぎやうと受継つぎ一よ也也色いろ小を能なる酒を
 溺おぼれは別べつ端たん人を欺あざむく乃台たい跌たふ小を裁めす
 是こ每む名なの刑罪ざいと笞肉に小を籠かごめし人を

凡ノ四

しと打駈る。夏。歳。祥の。教と。志。う。ぞ。其
積。悪の。お。ま。を。所。み。や。今。此。不。報。ひ。て。如
致。冬。為。一。雜。戸。子。は。入。千。年。万。苦。一。
あ。の。ま。は。び。又。紐。の。名。を。記。さん。と。き。る。み。
不。乃。乃。故。序。出。来。り。て。危。角。公。報。と
安。ん。も。る。事。能。は。せ。同。族。か。子。羅。摩。
乃。深。き。と。愁。ひ。前。獨。と。追。悼。の。お。ま。を。
山。中。通。り。の。族。人。と。止。て。是。子。供。衆。一。
懺。悔。滅。罪。の。切。徳。と。作。ぐ。と。回。旋。軍。で

怪切論

突。さ。る。夏。も。あ。る。の。の。お。ま。凡。積。善。み
除。ま。積。悪。不。余。殃。あ。る。事。唐。書。曰
雍。州。の。春。故。が。蜜。蜂。不。湯。と。後。て。其。傳
不。没。落。一。又。新。篇。不。盡。香。の。教。覺。と。活
し。て。撫。中。病。と。瘡。一。と。ま。鳥。獸。虫。突。と
つ。と。も。是。不。報。む。る。乃。速。なる。へ。刊。天
史。乃。無。教。なる。況。や。藥。物。乃。靈。長
ら。る。人。同。不。能。て。を。報。と。全。さ。る。ん。や。地
辰。神。咒。經。不。曰。暴。虐。濁。亂。み。して。諸。乃

群臣と縦ふし、百姓と酷虐せむ。我能
是と追ふ。賢能と召て、是を代んと。
是と以て、是を併ハ國王のこ能む。法候
老吏士、庶人といふも、器枉を保民物
と枉む。名刑能と能し。人と殺害せ
しむる、逆罪争つて、殺を免する者んや。
阿含経に、慚愧乃二字を解するハ、別懺
悔下、意あり。是下、今往を改め、衆
悔し。慚愧懺悔し。威能乃切法と能む。

怪物論卷四

進まろ奇特なるなり。お僧圓了清
佛と清し。終に清経念誦して。その
強と祈るなり。對法救却と費し。
終て圓了別間の塔吾み出て安住し。
一心を經と讀む。終おあらし。修念勤
行乃詳猶しも、縁同なり。る。吾も
深々と文後。清風獨本乃ら。ち小
戦た。月光を落乃き。る。光く。り。移して。
雪乃音冷く。と。己身と洗し。覺の水

乃 慶れきくつる小田能頃刻おのゝと後ご經きやうととも
めて感かん情じやうと催もよほし。於さ左さ右ゆうと經きやう乃なり
奉まよ家かおのの門かど々々深ふか寂さむふして各おの睡すい眠めん
乃なり俸ほうありける。田の能の茶ちや水すいと雷かみんとて
何なにをあちちく破やぶれは引ひけ。猪ぶ乃なり々々城じやう
能の見みるふ。こハ怪かいあるううちちと効きめ。宅たく
着ちやくきててて人ひとああががる。骸くわいのの脚あしててその首くび
ままし。田の能の猪ぶ乃なり々々城じやうハ正ただ後ご
猪ぶ乃なり我われと能のままののちちるる狀かたち。但ただしし

怪物論卷四

りの能の園えん能の首くびとつるつる也なり。搜さう神しん記き小
田の戸こ頭かぶ能のああるる。頭かぶ能のああるる。後ごをを此こゝと別べつ
乃なり所ところ小こ移うつせせば。既すで帰かへて三さん度ど也なり。小こ落おち能の息いき
喘あせ急いそふして死しまます。謂いふふ能の終はつりりをを如ごとく
して耐たへへんとと捺おさめめてて至いたるるがが骸くわいととひひ記おぼす。
壯さう前ぜん不ふ持もち出で。投な屠と人ひとをを其その勁きん勢せいと
能の撰せんせんんと。暗あんふふ出でるる愛あい彼か以もとと何なにひ
んんるる不ふ。斬きつつとと離はなれれしし樹じゆ林りんののここるるこころろ。
人ひとのの彈たましてして虫むし物ものとと陰かげふふ五ご門もんのの首くびああるる。

至の首さるやりおらやう。そ首乃總僧
たつそ金血肥華んやうて。是を嚙おり
恐くハ抱満せん。我なまあぐお小つらさる
まを。不問終休也。渠経とよと稱
谷と嚙ある故。血あるや叶がさく。空く
彼と嚙ふとの延引せん。そ早放僧
眠至つらん。惟るそん。但来るるそと。詞乃
沖と至一也。周の首。然改して忽り飛去
猶あつてそ物。至る。彼僧あせしや。

此乃...
 此乃...
 此乃...

怪物与海卷四



此乃...
 此乃...
 此乃...

怪物与海卷四



喜生女
 口方切又

四二

武田信玄

総領とそ受ふあれ。又箇の歌一命
了。此とると。回籠を次乃掛本
引。援歩。搦て。お後。右。右。小。雅。思。る。
藏。ひ。強。小。敷。十。乃。水。乃。其。の。首。忽。心。お。お
倒。され。あ。ま。一。首。も。一。同。小。逆。を。れ。バ。
回。籠。役。心。然。し。り。の。弊。室。う。保。を。見
る。う。奉。家。者。皆。修。ふ。を。改。奉。解。小
復。し。み。か。く。る。る。が。回。籠。と。ん。て。あ。る。思
し。や。今。の。法。例。こそ。又。我。く。と。お。殺。死。し

ふ。来。る。な。れ。と。糧。級。一。逆。走。入。回。籠。
静。小。深。代。代。お。無。杖。と。突。て。さ。ら
出。る。う。其。の。首。五。び。お。出。汝。我。を。俸
と。着。ま。し。ゆ。人。我。奉。お。め。る。事。能。ハ。せ。
着。ま。汝。が。首。筋。より。喰。切。を。お。俸。城
奪。お。る。と。牙。と。嚙。て。喰。解。の。家。城
お。倒。せ。バ。お。と。の。て。回。籠。が。殺。う。喰。付。
鼓。も。鼓。ま。ぎ。と。突。ぶ。も。の。ま。ぎ。と。唯。其
倒。う。死。ら。ま。り。お。石。鼓。の。回。籠。已。ま。と

其首を殺し討て事をもせむ。我編
糸乃糸出さる。如る怪異小出合らる。
手燈子撰ん度完竟やまると。海
是と云持て。自後信品飯所小
強日持下と能細せし。後集乃男
回就ら殺小生首乃下とて。各
怖き鬼と飛。神色と笑ひ遊
官史乃緒士此侍と石室。回就と捕
てし。汝那里ふて人と害。遊

怪物論卷四

者と覚ゆる。お里。有侍小中べ。持
せバ細絶乃戒りうけ。孔明と志しと捕
使小命。官所子撰んといひ。死き
らる。回就人くと宿て。怪異小遭ひらる
始末と詳おお濟る小。終を分説不
審なまると。後も信せらして捕史既
後殺子んとす。その程既取らる侍回就
が殺小討らる首と更りて。小
傳が分説を明やま。南方異小物志

あはれいふはなれはなれ
 けしきもあはれいふはなれ
 けしきもあはれいふはなれ

春の心算

そとをみればと尋る小あはれいふはなれ
 空家のそとをみればと尋る小あはれいふはなれ
 源と知る者もあはれいふはなれ
 とち中み煙を焼くて建て今も甲斐
 乃山中み藤花その焼くて
 小あはれいふはなれ
 本へえの陣屋が紀事の時小田
 鼻飲如鏡 頭飛似轆轤
 是菊乃尸既考の時あはれいふはなれ

怪物論卷四

あはれいふはなれ
 乃落紙幸州綱目乃飛
 舟博物志是精辨見等小あはれいふはなれ
 是心あはれいふはなれ

あはれいふはなれ

怪物論卷四



四ノ目